

令和3年度 第1回二宮町政策評価委員会 議事要旨

開催日時	令和4年1月31日（月） 10:00～12:10	
開催場所	二宮町役場 第1会議室	
出席者	委員	出席6名 大田 博樹 委員、内田 尚徳 委員、太田 久美子 委員、 井通 隆正 委員、友野 恵美子 委員、佐々木 栄一 委員、 欠席1名 山本 秀樹 委員
	町	政策担当部長
	事務局	政策総務部企画政策課3名
傍聴者数	1名	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委嘱状交付 3. 委員自己紹介 4. 委員長及び副委員長の選任 5. 町長あいさつ 6. 委員長及び副委員長あいさつ 7. 議事 <ul style="list-style-type: none"> (1) 二宮町総合戦略評価に対する意見等について (2) その他 8. 閉 会 	
配布資料	資 料1 総合戦略施策評価シート（令和2年度実績） 参考資料1 二宮町附属機関が開催する会議の公開及び会議録 の公表に関する要綱 参考資料2 二宮町政策評価委員会条例 参考資料3 二宮町政策評価委員会委員名簿 参考資料4 施策に関連する行政評価結果（基礎評価シート） 参考資料5 二宮町総合戦略評価に係る意見書の提出について （令和元年度） 参考資料6 行政評価システムについて	

【議事要旨】

(1) 二宮町総合戦略評価に対する意見等について

(主な意見交換等) ※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

基本目標1 ひとが集い、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる

施策：公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出

- 東大跡地活用で、団体間の方向性の違いにより事業の進捗が芳しくないと課題があげられているが、具体的にはどのようなことか。
- 現在、町民の有志により、試験的に跡地を活用しています。運用に携わる団体は様々で、それぞれの団体としての活動の考え方が優先されるため、全体としての議論が進まないのが現状です。また、新型コロナの影響もあり、議論の場が設けられないこと、また、イベント等も実施できないため、活用方法を検討できないことなども苦慮しています。
- 協議会で検討されているのは、一過性、それとも継続性のあるイベントなのか。
- 町補助金等に依存せず、自立した運営ができる組織づくりを目指し、協議会の設立を行いました。自立した組織として、組織の運用に係る土地の借地料等の経費については、イベント等の収益により賄うことなどを想定していましたが、土地の整備方法やイベントの実施内容等において、それぞれの団体の立場からの主張が先に立ち、協議会としての合意形成が図られない状況です。
- 新型コロナの影響が続く中で、イベントの実施数が増えているのは、何か改善されたのか。
- 当初、新型コロナの影響でイベントが実施できなかったのですが、小規模化などウィズコロナへの対応をしたことで活用を一部再開できたためです。
- 東大跡地の近くを通りかかるが、どこから入場できるのか、また駐車場の場所がどこかなど、利用方法が分かりづらいと感じる。
- 町は、協議会の活動や収益等の成果で、事業の進退を決定する姿勢を持っているのか。
- 現在、協議会の運営には国の交付金等を活用していますが、令和3年度で終了します。東大跡地は町の財産であることから、土地を利用する団体等に対して、土地の借地料を求めることを前提としています。借地料としては、団体の会費等で賄えれば良いのですが、それだけでは厳しいとのこともあるので、イベントの収益も充てることが考えられることを協議会には説明しています。町としては、土地の活用については支援していますが、収益を上げることまでについては言及していません。ただ、各団体の活用目的が異なるため、共通課題である土地の借地料を賄うことについては、同じ方向性で議論が進まないのが現状です。
- ◎ 一部の人しか活用していないこと、また情報開示が不足していることが、各委員の意見に共通してみられる。例えば、跡地を活用した人が、どのように活用したの

かを情報発信することで、情報共有が図られることが考えられる。積極的な情報発信が必要だと思う。

- 公共施設の総延べ面積の縮減には、公共施設を活用するという視点をいれる必要がある。また、年少人口の転入数を増加させるために、こういった魅力があると増えるのかという分析が不足していると思う。例えば、通学路の安全性の確保や、小児医療費の所得制限撤廃などが魅力になると考えられる。施策1-2にも関連するが、空き教室の活用として、高齢者や障がい者の方も関われるようなプロジェクトなどができると思う。岩手県の福祉バンクのように、場や人の活用、モノの循環といった複数の課題を同時に解決できる取組になると良い。
- ◎ 様々な社会課題を複数の事案で解決するサーキュラーエコノミー（循環型経済）の考え方が求められているのだと思う。複数の事業を掛け合わせ歯車のような役割を持たせることで、継続に結びつけることができる。
- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいか。
(異議なし)

施策：地域で支えあう体制の構築

- ◎ 全体的な意見として、より多くの人の意見を拾い上げることが挙げられているがいかがか。
- 地域の通いの場は、新型コロナの影響で活動が制限され、昨年度は計画の半分程度の実施となった。新型コロナによっては、参加状況が改善されることも考えられる。一方で、そもそも会場の設定にも課題があると感じている。階段や坂の多い集会施設では、行くこと自体にハードルがあるため、参加しやすい環境づくりが必要なのだと思う。
- 百合が丘の集会施設も同様である。ただ、百合が丘商店街あたりまで、高齢者の方が買い物のために外出している状況もある。会場自体の問題もあるが、参加する動機づけやきっかけも必要があるのではないか。百合が丘商店街の周辺では、若い世代が集まるお店や児童館等もあるので、高齢者も立ち寄れるきっかけを作っておけるのはいいのではないかと思う。
- ◎ 地域の通いの場について、オンラインの活用の可能性はあるのか。
 - オンラインを活用する壮年・中年層までであれば可能性はありますが、高齢者は現状では厳しいと思います。ただ、来年度以降にスマホ教室等を行う予定なので、そういった取り組みが進めば、オンラインの活用なども考えられます。
- ◎ 現状のように外出が困難な状況でオンラインの活用は有効であると思う。
- 百合が丘児童館は高齢者が使用できないのか。
 - 建設当時の名残が名称に残っているだけで、児童館、老人憩いの家、防災コミュニティセンター等は、誰もが利用できます。
- 施設は誰でも利用が可能であるのであれば、多世代が交流できるイベントなどが開催できると良い拠点となるのではないか。

- 元町南の地域の通いの場の会場は、階段が多い元町老人憩いの家ではなく、ラディアンを使用することも考えられるのではないかと。
- 元町老人憩いの家は、地区要望により階段昇降機の取り付けの可能性を検討したのですが、構造上の問題で断念した経緯があります。ラディアンは有料施設となっていますが、地域の通いの場としての活用であれば無償とすることも可能かもしれないので、相談してみてもどうかというご提案を地区にしています。ただ、当時から、老人憩いの家の方で活動したいとの意向が強く、現在もそちらで活動されている状況です。
- ホテル跡地に活用できる施設ができるといいなという意見もあるようですが、すぐに実現できるものではないと思う。地域の通いの場に参加するのに躊躇されている方にとって、せめて施設だけでも入りやすい構造になっている良いと思う。
- ホテル跡地については、(仮称)新庁舎・駅周辺公共施設再編計画(案)の中で、社協の事務所と一般の利用者が使用できる貸館としての活用を想定しています。地域の方も使用可能なので、地域の通いの場の会場としてもご利用いただけたらと思います。計画通りに進んでも、早くも2年程度かかる予定です。
- ◎ 高齢者向けの支援には、やはり参加しやすい環境を整えることが重要と感じる。また、年齢問わず多世代間の交流は大切になるため、町の施設を有効に活用することもポイントになる。
- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいかと。(異議なし)

施策：地域コミュニティの醸成支援

- ◎ 事前に委員からいただいた意見で、K P I「地域活動に参加している人の割合」について、どのような方がどのようなモチベーションで参加しているのかという疑問があったのだが、町では状況を把握しているのか。
- 地域活動に参加されている方のモチベーションの差があることは承知していますが、アンケート調査では設問数が限られていることなどから、詳細を分析できるようなデータの取得には至っていません。
- ◎ 補助金の申請について、一般的に、複雑な手続きが必要になるイメージから申請するハードルが高くなる傾向にあるが、その点について工夫などはしているのか。
- 説明書を用意しているほか、初めて申請される団体については、記入方法等も含め丁寧に説明を行っています。
- ◎ 申請する立場からの視点も取り入れて、説明には何が必要なのか検討することが大切だと思う。
- 県では行政課題の解決に関連した活動をされている団体に対し、審査を行い補助している。町でも、特定の行政課題をテーマにして、活動団体を募集してみてもいいのではないかと。
- K P Iを上昇させるためには、基準となる数値の分析が必要で、そのうえで有効

な施策を講じていくことになる。本施策の取り組みとK P I の相関関係はどのようになっているのかが見えづらい。

- ◎ 確かに施策の目標とK P I の関係性が分かりづらいと思う。また、関係するデータも収集しきれていないように思う。
- 本施策では、人口減少が特に進んでいる一色小学校区において、地域主体の組織である「一色小学校区地域再生協議会」の取り組みを位置づけています。協議会の活動で、地域が盛り上がることで、地域に住み続けたいと思う住民の割合が増加するとともに、地域活動にも関わる人が増えていくことを想定して、施策及びK P I を設定しています。先ほどの説明のように、地域活動に参加されている属性等についての詳細のデータはないので、今後、詳細な分析ができるデータの取得方法を検討していきたいと考えています。
- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいか。
(異議なし)

基本目標2 新しい人の流れを生む魅力あるまちをつくる

施策：二宮らしい魅力の創出と発信

- ◎ 「二宮らしい」という定義がなかなか難しいと思う。委員の意見にもあるように、「楽しそう、生き生きと感じられる」ことが重要ではあるが、どのように進捗を図るのかK P I の設定の難しさがあると思うが、町の考えはいかがか。
- 二宮らしさとしては、「恵まれた豊かな自然」と「多様性を受け入れられる環境」にあると思います。近年、転入者が新たに商売を始められるなどの事例が多く、町にすぐに溶け込みやすい環境があると感じています。これらの二宮らしい魅力をシティプロモーションでアピールしていくことで、ホームページの閲覧数や観光客数の増加に繋げていきます。
- 東京都と二宮町の2拠点で活躍されている山本氏と観光協会とのタイアップで、「二宮らしさ」「魅力」を紹介した観光リーフレットを作成しました。このような新たな取り組みが進んでいる一方で、取り組みを全く知らない町民の方もいるので、情報発信の手法について課題を感じています。
- ◎ 「二宮らしさ」などを検討するようなワークショップはあるのか。
- そのテーマに特化したワークショップは開催していませんが、総合計画等の計画策定時には、町民の方を対象にしたワークショップを開催し、二宮町の魅力等についてご意見を伺っています。
- 自身が二宮へ移住した理由として、「長寿の里」と言われていたことや、温暖な気候を感じられたことにある。また、近隣と比較し、コンパクトの町の中にこれだけの自然があるところはないと思う。
- 本施策だけを推進するのではなく、複数の施策と融合した取り組みを行った方が柔軟な取組になり、面白みが増すと思う。「自然が豊か」だけでなかなかアピールしづらいので、「自然が豊か」だから「農業が始めやすい」などと結び付けてもよい。

- ◎ 相乗効果でより魅力を増せるような施策を検討できると良いと思う。
- 町外の方が多くラディアンを利用している事実は興味深く、町としての良いアピールポイントになると思う。
- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいか。
(異議なし)

施策：特色ある教育活動の推進

- ◎ 他と比較してどのような特色があるのかということと、K P I が事業の状況を反映していないのではないかという委員からの意見があったが、町の考えはいかがか。
- 町としてはK P I と事業を関連させているつもりですが、外部から見ると関連性が分かりづらいのかもしれませんが。見せ方やK P I の設定を増やす等の改善手法が考えられると思いますが、外部の視点から具体的にご提案をいただきたいです。
- ◎ 現在のK P I だと、本施策以外の取り組みや、社会情勢の変化によって結果が左右されやすいものになっている。本施策の効果をダイレクトに図れるようなK P I の設定が必要である。
- 目的に沿った適切なK P I が設定されているのか疑問である。事業の進捗を適切に図れるK P I の設定が必要である。
- 小中一貫のメリット・デメリットがどれだけ理解されているのかをK P I にすると良いと思う。メリットがしっかりと認識されていないものを取り組んでも、効果は表れない。そもそも小中一貫のメリットは何か。
- 小学校から中学校に進学した際に、大きな環境の変化になじめない、学習が追い付かないといったギャップを解消する効果があると思います。また、もう一つとして、一色小学校のような単級化という課題を解決する一助になることも期待されています。
- 具体的な教育効果を高めることを見せられるといいと思う。例えば、小中一貫になると、高校受験に有利になるなど、町民に方にとって分かりやすいメリットが示せると良いと思う。
- ◎ K P I には、長年かかって効果が表れる「遅行指標」とすぐに効果が表れる「先行指標」が混在しており、教育による効果が見えづらくなってしまっている。町民の方にしっかりと特色が何かを理解してもらい、一緒に取り組みを進める体制づくりが出来ると良いと思う。
- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいか。
(異議なし)

基本目標3 出産・子育てを支え、子育てを楽しめる環境をつくる

施策：妊娠から子育てまでの切れ目のない支援

- ◎ K P I の目標値が高すぎるのではないかという意見があったが、町ではどのような考えで設定しているのか。

- K P I 「乳幼児全戸訪問事業」については、町の規模だと 100 パーセント達成するのが当たり前であり、そのサービスを継続することを目的にしています。
- ◎ 家庭の事情による場合も考えられるため、100 パーセントを切るような状況も起こり得る。それによって、事業の成果が問われるのは厳しいと思うので、90%以上にする等の目標値の見直しも考えられる。
- すでに達成率が高いものをK P I に設定するのは効果的ではない。問題があるようなものをK P I に設定し、改善を図るという流れの方が良いのではないか。本施策では比較的達成率が高いものが設定されているのが気になる。
- ◎ 施策2-2に設定されている「将来に夢や希望を持っている児童生徒の割合」では、かなり主観的な要素を含んだK P I だと思う。社会情勢の変化や感情の変化で、強く左右されやすいため、K P I として不安定な気がする。
- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいか。
(異議なし)

施策：仕事と子育ての両立支援

- ◎ K P I に関する意見が多かったように見受けられる。K P I と施策との関係性や、待機児童数の設定など、町の考えはいかがか。
- K P I 「0～64 歳までの人口構成割合」は、内部評価でもK P I と施策のつながりが分かりづらいと意見がありました。修正案として、「ファミサポまかせて会員数」の設定を検討しており、サポートする体制づくりをすることで、仕事と子育ての両立支援につなげていくことが狙いです。待機児童数については、先ほどの施策と同様に、達成率が高いものに取り組んでも効果がないという意味でしょうか。
- 達成率が高いものをK P I に設定してはならないのではなく、町の強みとして押し出すのであれば設定することも可能だと思う。ただし、外部から見た際に、すでに達成率が高く、改善点が見えづらいとの声があった時に説明ができることが大切である。
- 保育所の入所希望は増えているのか。
- 正確な数値は把握していないが、少子化が進んでいる中でも、入所希望は増えています。一方で、幼稚園の希望者は減っているようです。
- 移住される方から考えると、待機児童数ゼロとしていても、実際には定員が埋まっていて利用できない状況では困る。外から見てもわかるようにするのであれば、「余裕数」を示してあげる必要があるのではないか。実際の余裕数はどうか。
- 余裕数がないのが現状です。また、保育の必要度合を一律に測るのも難しい面があります。
- 「母になるなら、流山市。」をキャッチコピーとして、市全体で子育てしやすい環境を整備し、子育て世代の転入に結びついている成功事例がある。二宮町でここまでするのは難しいが、町の特性として町外に仕事をされる方が多いので、駅をベースとした保育環境を準備する必要はある。そういった意味で「余裕数」をK P I に

設定できると良いと思う。

- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいか。
(異議なし)

基本目標4 地域産業の振興を図り、仕事を生み出しやすい環境をつくる

施策：地域商工業の活性化

- ◎ 起業支援、後継者支援、企業誘致など、町で行っている取り組みはあるのか。
- 起業支援は、商工会を中心に連携して進めています。その他の取り組みについては特段行っていません。
- ◎ 県で取り組みを行っているのはあるのか。
- 後継者支援も行っているし、企業誘致については、補助金や税制上の優遇措置を行っている。町の規模だとなかなか難しいとは思いますが、二宮工業団地があり事業所が集積しているので、企業誘致のために何か取り組めるものがあるといいと思う。
- ◎ 二宮ブランドを支援する取組として何があるのか。
- 商工会が主体となっているので、それに対し補助している状況です。
- ◎ 町内在住の委員の方で、二宮ブランドをどれだけ意識されているのか。
- 知り合いの方の手土産を用意する時に利用している程度です。味は好評だが、種類が少ない気がする。
- 落花生やオリーブなどは意識しているが、オリーブの商品はまだ少ないと感じる。
- ◎ 情報発信が足りていない気がする。
- 二宮ブランドの購入できる場所として、観光協会の「にの屋」があるが、吾妻山公園に観光で来た方は、ほとんど気づかない状況である。ふるさと納税の返礼品に二宮ブランドがあるのだが、自分自身は、そこで初めて「二宮ブランド」について知った。皆さんに知ってもらう手法をもっと工夫する必要がある。
- オリーブオイルが売り切れており、なかなか手に入らない。ふるさと納税で確実に手に入るのであれば、魅力になるのかもしれない。また、ニーノとミーヤのキャラクターが可愛らしいので、Lineのスタンプなどに活用してもよいのではないか。
- ◎ 購入意欲があっても、駅周辺で二宮ブランドが手に入らない。観光客にとっては、駅から離れている店を探すのにハードルがある。
- 菜の花の時期はにぎわっているが、駅の北口側だけで、南口は閑散としている。
- ◎ 駅周辺にサテライトショップのようなものがあると良いのではないか。
- 吾妻山公園の山頂で販売することは可能なのか。
- 車で頻繁に往来することができないため、商品の運搬にハードルがあるようです。また、「にの屋」でも二宮ブランドの商品を取り扱っていますが、商品によっては消費期限が短いものもあり、すべての商品が揃わないようです。今後、駅前町民会館跡地の活用を検討する中で、サテライトショップの要素も含めることが考えられると思います。
- 現在パブコメを実施している「(仮称)新庁舎・駅周辺公共施設計画(案)」は、

そういったことも対象にしているのか。

- そのとおりです。
- ◎ 出来ない理由は探しやすいが、どうしたらできるのかを住民とともに検討できる
といい。町民ワークショップなどでそういった機会を設けて、できることから挑戦
していけるといいのではないか。
- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいか。
(異議なし)

施策：地域農林業の活性化

- ◎ オリーブ商品が不足していることや、オリーブと他の特産物を融合させて商品開
発などが委員から意見がでていますが、町で把握している状況はどうか。
- オリーブの生産量が増えていかず、当初の計画と実態が乖離しており、なかなか
広がりが見えてこない状況です。課題解決として、遊休荒廃農地の活用し生産量を
増やす取り組み、また生産に関わる人材確保のために、新規就農者を増やす取り組
みなどに力を入れる必要があると考えています。
- ◎ 新規就農者の確保と有害鳥獣対策との関係性は何か。
- 農家の廃業理由として、鳥獣被害の影響もあるようです。また、遊休荒廃農地を
解消することで、有害鳥獣の発生が抑えられる等の関係性もあるかもしれません。
- 就農するためには様々なハードルがあるため、それを解消するための支援が必要
ではないか。例えば、過疎化が進んでいるエリアに、農地を含んだ住宅等を整備し、
定住を促しつつ、農業を始めるきっかけを作る取り組みなどができたら良いと思う。
また、1つの施策の課題を解決するよりも、複数の施策の課題解決をすることを目
指す方法を検討する必要がある。
- ◎ 1対1の施策だと予算が無くなれば継続することができないため、複数の施策を
合わせることはいいと思う。移住者向けの家庭菜園などは需要があると思う。
- 県の住宅供給公社では、入居者が減少している二宮団地で、新たな試みとして、
移住者の農業体験や就農者向けの支援などを行っています。
- 団地の広さを考えると、1～2人程度の規模なら大丈夫だが、それ以上の世帯に
なると移り住みづらい。
- 比較的賃貸料が安価であるため、2部屋を利用される方もいるようです。
- 湯河原町の飛田柑橘園では、柑橘にオリーブオイルを組み合わせ商品を開発し
ており、大変人気があり商品数も拡大している。その他に、オリーブオイルに、シ
イタケ、落花生等の特産物とコラボしている事例もあるようである。町の特徴とし
てパン屋が多いので、店でPRを兼ねた試食を実施し、商品の購入に誘導できるよ
うな仕組みもできるのではないかと思う。
- ◎ 町としての役割としては、商品開発そのものに関わるというより、商品開発がし
やすい環境を整えてあげることだと思う。
- ◎ 評価委員会としては、「継続実施」ということでよろしいか。

(異議なし)

全体に関すること

- 現在進めている新たな総合計画の策定と今回の評価の関係性はどうなっているのか。
- 今回行った外部評価は、総合戦略の評価となるため直接の関係性はありません。ただ、来年度は、総合戦略の評価とともに、総合計画の政策評価を行っていただくので、それらは策定する内容にも反映していくことになります。

(3) その他

- ・ 次回の委員会については、2月22日(火)10時00分から開催します。内容は本日の意見のとりまとめと、町への意見書について検討します。
- ・ 本日の議事録を作成するため、確認作業にご協力ください。

【以 上】